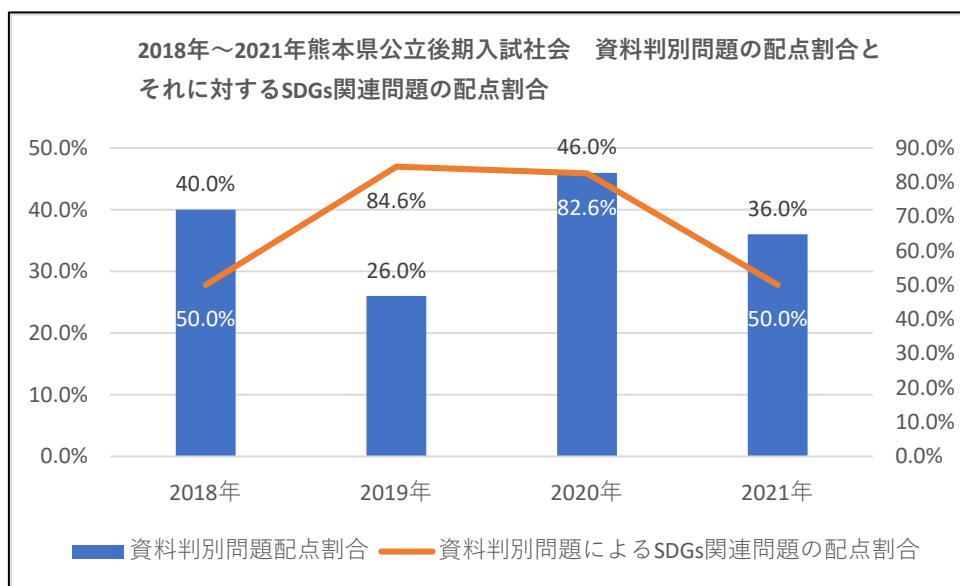
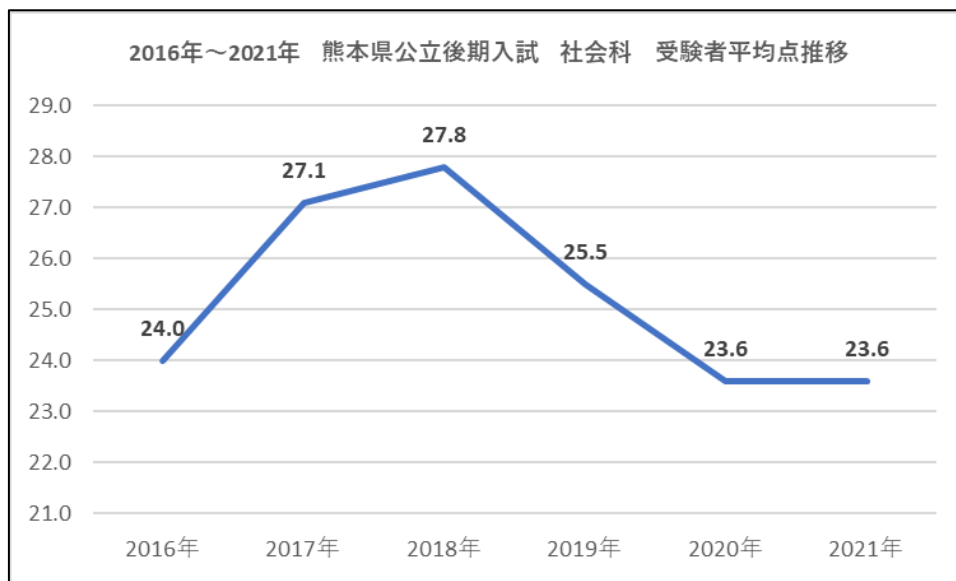


★ 熊本県 公立後期入試 社会の分析



★POINT

- ① 熊本県の公立後期入試 社会の受験者平均点は低くなっている。
⇒ 近年、難化傾向となっている。
- ② 11月昂模試 社会の正答率分析を見ると熊本高校・済々黉高校志望者と第一高校・第二高校志望者の正答率の差が大きい、正答率が低い問題は資料判別問題である。
- ③ 資料判別問題で増加している内容は SDGs に関する問題であり、求められていることが以前と比べて変化していることが、難化する一つの原因として考えられる。

★ 問題の解き方について

- ① 答えるべき内容（結論）を把握する。
- ② 資料、指定語句、字数制限などの条件部分を印付け。
- ③ 与えられた資料のタイトル、単位、項目をおさえ、読み取れる情報を確認する。

問題 1 2021 年 10 月実施 中 3 全九州模試より

群馬県にある大泉町の人口について、資料 1 と資料 2 を正しく読み取っているものを次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

《熊本・済々覺志望者と第一・第二志望者の正答率の差:10.9%》

- ①結論
②条件
③資料⇒情報

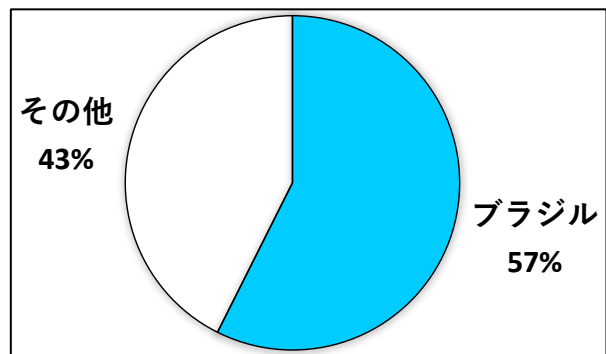
資料 1 大泉町の人口の変化(人)

	総人口	外国人人口
1995 年	41925	3848
2019 年	41987	7977

※資料 1 の概数値

	総人口	外国人人口
1995 年	42000	4000
2019 年	42000	8000

資料 2 大泉町の外国人国籍別割合



(大泉町「大泉町の人口」より作成)

★選択肢

ア 総人口は 1995 年から 2019 年の間に、わずかに減少している。

⇒ 資料 1 から総人口は増加している。⇒不適切

イ 1995 年の外国人人口割合は、約 19%である。

⇒ ※資料 1 より概数計算。 $4000 \div 42000 \times 100 = 9.5\%$ ⇒不適切

ウ 2019 年の外国人人口は、1995 年の 3 倍以上になっている。

⇒ ※資料 1 より概数計算。 $8000 \div 4000 = 2$ 倍⇒不適切

エ 2019 年の総人口に占めるブラジル人の割合は約 11%である。

⇒ ※資料 1 と資料 2 よりブラジル人の人口を概数計算。 $8000 \times 0.6 = 4800$ 人

⇒ 求めたブラジル人人口と※資料 1 より大泉町総人口に占めるブラジル人人口割合を求める。

$4800 \div 42000 \times 100 = 11.4\%$ ⇒適切

問題 2 2021 年 熊本県公立高校後期入試より

資料 1 は、エコツーリズムの定義について、エコツーリズム推進法を調べ、まとめたものの一部である。次のア～エの北海道各地の観光に関する説明のうち、エコツーリズムの視点に立った取り組みの例として最も適切なものを 1 つ選び、記号で答えなさい。

《県教委分析による正答率: 65.1%》

- ① 結論
- ② 条件
- ③ 資料⇒情報

資料 1

エコツーリズムとは、観光旅行者が、自然観光資源について知識を有する者から案内または助言を受け、その保護に配慮しながら観光や体験活動などを行い、自然観光資源に関する知識及び理解を深めるための活動をいう。自然観光資源とは、以下のⅠ、Ⅱをさしている。

- Ⅰ 動植物の生息地、または生育地、その他の自然環境にかかわる観光資源
- Ⅱ 自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化にかかわる観光資源

★選択肢

ア 札幌市では、冬に観光客を呼び込めるように「さっぽろ雪まつり」を開催し、雪を利用して作った雪像を市街地に展示している。

⇒環境保護の配慮がされていないため、定義と異なる⇒不適切

イ 旭川市の動物園では、動物本来の生態が観察できるようにペンギンやホッキョクグマなどの展示方法を工夫している。

⇒展示の工夫は観光客への配慮であり、環境保護の配慮がされていないため、定義と異なる⇒不適切

ウ 知床半島では、野生の動植物と共存しながら散策を楽しむことができるように高架木道を設置している。

⇒地域特有の自然と動植物の観光の際、自然保護の配慮がされている⇒適切

エ 道内各地のスキー場では、多くの外国人がスキーを楽しむことができるように外国語表記の案内を充実させている。

⇒外国人への配慮についてなので、定義と異なる⇒不適切

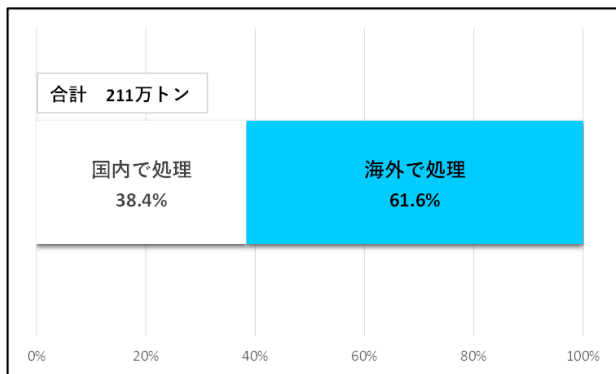
問題 3 2021 年 三重県公立高校入試より

せいやさんは、日本の廃プラスチックの処理状況に関する資料を集めた。資料 1、資料 2、資料 3 はその一部である。廃プラスチックについて、持続可能な社会を実現するために解決すべき日本の課題は何か、その一つとして考えられることを資料 1～資料 3 から読み取れることをもとにして、「輸出」と「国内」という 2 つの言葉を用いて、書きなさい。

- ①結論
②条件
③資料⇒情報

資料 1

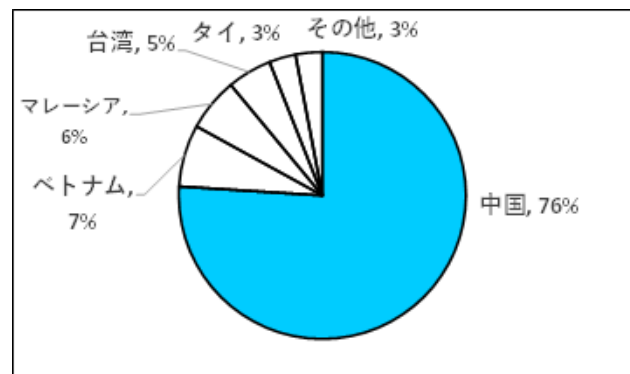
2017 年 日本の廃プラスチックの処理状況



(プラスチック循環利用協会資料ほかから作成)

資料 2

2017 年 7 月 日本の廃プラスチックの主な輸出先



(「財務省貿易統計」から作成)

日本の廃プラスチックは主に海外で処理。

廃プラスチックの処理輸出先は、中国を中心とするアジア諸国。

資料 3 海外における廃プラスチックの輸入規制の動向

・中国 2017 年 12 月末 非工業由来廃プラスチックの輸入を禁止 2018 年 12 月末 工業由来の廃プラスチック輸入を停止	・台湾 2018 年 10 月 輸入規制の厳格化
・ベトナム 2018 年 6 月 輸入基準を厳格化	・タイ 2021 年 全面輸入禁止の方針
・マレーシア 2018 年 7 月 実質的に輸入禁止	

日本が多く輸出しているアジア諸国は、廃プラスチックの輸入制限を厳格化。

資料から導かれる結論⇒廃プラスチック処理を国内で行わないといけないという課題。

正解

日本が廃プラスチックを処理**輸出**しているアジア諸国の多くで輸入制限が厳しくなっている**ので**、廃プラスチックの多くを**国内**で処理している必要があるという課題。

★SDGs 関連問題のポイントについて

- ① 資料判別問題(特に割合)では、**計算して解く問題なのかを判断する**。
- ② 資料の内容を理解して解く問題が多く、**答えの根拠は資料の中に必ずある**。
- ③ 記述問題では**自分の意見をまとめる力が必要**となる。